（各課様式１）

予　算　要　求　資　料

令和８年度当初予算　　支出科目 款：農林水産業費　項：農業費　目：園芸特産物対策費

事 業 名　花きの担い手育成技術支援事業費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）
農政部　農産園芸課　花き振興係　電話番号：058-239-3163(内115)
E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

１ 事 業 費　　3,000 千円　（前年度予算額：　　7,475 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財　産 収　入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	7,475	3,737	0	0	0	0	0	0	3,738
要求額	3,000	0	0	0	0	0	0	0	3,000
決定額									

２ 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

・本県の花き類は、全国４位の出荷量を誇る鉢物をはじめ、苗物、切り花等が生産されている。
・花き産出額は、Ｈ１５の98億円をピークに右肩下がりとなり、コロナ発生前は65億円前後、コロナ発生後は50億円弱で推移。
・県では、Ｒ３に新たな花きの需要開拓を目的に、花き業界と産学金官の異業種が業界の壁を超えて連携する組織として「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」を、R4に「花き産業の振興」と「花きの担い手の育成」の拠点としてぎふ花と緑の振興センターを開設。
・センターでは、R4から花き生産者等を対象とした経営力向上研修を、R5からは経営力向上研修に加えて、花きの基本的な栽培管理技術やＤＸを活用した環境制御技術、県育成品種のフランネルフラワーの栽培技術等を習得させる技術研修を開催。
・経営力向上研修については、Ｒ６からＳＮＳを活用した販売や情報発信の講座を設けたが、参加人数が伸び悩むことが課題となった。ぎふアグリチャレンジ支援センターが全品目対象に経営力向上に向けた研修を実施している影響が考えられ、内容に重複があることから、経営力向上研修は支援センターに一本化。
・花きの担い手をめぐる環境は、消費者嗜好の多様化による販売の伸び悩みや燃料・資機材の高騰による高コスト化、夏期の高温傾向による品質低下等により急速に悪化しつつある。そのため、従来は就農年数の浅い花き生産者を対象にしてきた技術研修を見直し、経営者を対象した現状の課題解決を図る研修を実施して、花きの担い手の安定した経営を実現する。

（２）事業内容

県の代表的な花き品目であるフランネルフラワーやバラ等の担い手を対象に、高温対策など生産者の抱える課題の解決や環境測定データによる栽培管理等の効率的・省力的な栽培技術の習得を図る研修を実施する。

（３）県負担・補助率の考え方
当該研修は、花きの担い手育成と花き産業の振興の拠点施設であるぎふ花と緑の振興センターが実施するものであり、県が負担することが妥当である。

（４）類似事業の有無
無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	128	技術研修外部講師、研修企画審査員報償費
旅費	97	外部講師旅費、研修企画審査員旅費、業務旅費
需用費	2,390	肥料農薬資材費、燃料費、光熱水費、修繕料
役務費	185	通信費
使用料	200	バス借り上げ
合計	3,000	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ
ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和８年３月策定予定）
基本方針２「潜在力をフル活用した生産強化」
ぎふ花と緑の振興計画(仮称・令和８年３月策定予定)
１「花と緑の生産振興」

（２）国・他県の状況
国では、花き振興法に基づく基本方針を令和２年に見直し、暑熱対策やスマート農業技術の導入などの栽培技術の向上により、生産者の経営安定を図っていくこととされた。

（３）後年度の財政負担
ぎふ花と緑の振興センターは県が設置する組織であり、花きの担い手育成のための技術研修実施に関して、県が継続して財政負担する必要がある。

（４）事業主体及びその妥当性
県の組織であり、県が事業主体となることが妥当である。

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
花きの担い手が技術研修に基づいて新しい生産技術を導入して経営の効率化、省力化を図り、持続可能な経営を実現する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前(R1)	R6年度実績	R7年度目標	R8年度目標	終期目標(R12)	達成率
① 主要品目の花き産出額(億円)	―	43	―	46	53	81%
② 花き産出額（億円）	61	45	70	―	―	64%

〇指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	1　経営力向上研修 (1)集合研修　　開催回数5回、受講者数　18名 (2)オンライン研修　10講座、受講者数　約40名 2　技術研修 ・R4は研修温室を整備（2a×2棟）
	指標②　目標：64億円　　実績：48億円　　達成率：75 ％
令和5年度	1　経営力向上研修 開催回数：10回、受講者数：68名 2　技術研修 開催回数：基礎研修4回、課題解決研修6回、テーマ別研修13回　計23回 受講者数：190名
	指標②　目標：66億円　　実績：47億円　　達成率：71％
令和6年度	1　経営力向上研修 開催回数：10回、受講者数：53名 2　技術研修 開催回数：基礎研修4回、課題解決研修10回、テーマ別研修8回　計22回 受講者数：185名
	指標②　目標：68億円　　実績：45億円　　達成率：66％

２ 事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） ３：増加している ２：横ばい １：減少している ０：ほとんどない	
（評価） ３	近年の花きの担い手をめぐる状況は厳しく、この難局を乗り切るためにも、新しい栽培技術を花き生産者に研修することで生産体制の強化を図る当該事業の必要性は高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ３：期待以上の成果あり ２：期待どおりの成果あり １：期待どおりの成果が得られていない ０：ほとんど成果が得られていない	
（評価） ２	研修修了者は、受講後、学んだ技術を経営に取り入れるなど経営改善に取組んでおり、有効性のある事業である。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ２：上がっている １：横ばい ０：下がっている	
（評価） ２	社会情勢を踏まえ、花き生産者が習得すべき知識・技術に絞って研修科目を設定しており、事業効率化が図られている。

（今後の課題）

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 花きの担い手をめぐる環境は、消費者嗜好の多様化による販売の伸び悩みや燃料・資機材の高騰による高コスト化、夏期の高温傾向による品質低下等により急速に悪化しつつあり、担い手の現状の課題解決に向けた支援が急務である。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 技術研修の対象を従来の就農年数の浅い花き生産者から経営者にして、現状の課題解決を図る技術研修を実施する。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	